

# Pure Plate Reverb

## 満足の得られる空間

最初のユニットが50年代後半に発売されて以来、プレートリバーブはスタジオの主力製品となっていますが、それはなぜか簡単にわかります。シルキーな深みとオーガニックなリバーブプレートのリバーブは、数えきれないくらいの印象的なボーカルや楽器のレコーディングに使用されてきました。

プレートリバーブのメカニズムはとてもシンプルです。レゾナント・メタルプレートは、一方の端に送信トランジューサー、もう一つの端に1つ以上の受信トランジューサーを備えたフレームに取り付けられています。シグナルがサーキット内に入るとシグナルが増幅され、送信トランジューサーを振動させるために使用されます。得られた振動は、プレートを通して伝えられ、サウンドと同様に空気やルームの表面と相互作用します。これらの動きは、受信トランジューサーとプリアンプ・エレクトロニクスによって使用可能なオーディオシグナルに変換されます。

プレートリバーブの本質的なシンプルさを考えると、そのゴールデンサウンドをエミュレートするために作られたPure Plate Reverbプラグインは、シンプルで使いやすいことが役割りだと考えます。

### 主な機能:

- ボーカルや楽器にナチュラルな深みと輝きを与える
- メカニカルダンピングやシステムインプット・フィルターなどのオリジナルコントロールでサウンドをシェイプ
- パフォーマンスにインスピレーションを与える

## プレートの美しさ、シンプルさ

Pure Plate Reverbは、使い始めてすぐに素晴らしい結果が得られるシンプルなインターフェイスで、クラシックなプレートリバーブ・エフェクトの魅力的なサウンドを提供します。

## アーティストプリセット

Pure Plateには、著名なアーティストから提供されたプリセットが含まれています。DAWアプリケーションのプリセットメニューからアクセス可能な32種類のアーティストプリセットがファクトリーバンクに収録されています。追加のプリセットも含まれ、UADツールバー、ApolloのConsole2ソフトウェアのプリセット・マネージャーかの“Settings”メニューからアクセス可能です。

Benno de Goeij	John Paterno
Chris Coady	Patrick Carney
Chuck Zwicky	Peter Mokran
Ian Boxill	Richard Chycki

*Pure Plate Reverb*にプリセットを提供しているアーティスト



Pure Plate Reverbのインターフェイス

## 操作について

このセクションでは、Pure Plate Reverbの操作に関する概念を説明します。このコントロールの詳細については、この章の最後にある“Pure Plate Reverbのコントロール”を参照してください。

### 余分な飾りのないクラシック・プレートリバーブ

Pure Plate Reverbは、輝きのある本物のプレートリバーブ・サウンドを最小の労力で提供します。ダンパーメカニズムをコントロールしてリバーブの長さを設定し、トーンコントロールで音色を調整することはとても簡単に行えます。

プリディレイは、ドライシグナルとウェットシグナルが到着する時間に距離を加えます。2ポジションのローカットフィルターは、リバーブ出力の中での低域の成分をコントロールします。

アウトプットでは、ウェット/ドライ・ミックスコントロールを使用してソースとリバーブのサウンドを適切な量にブレンドすることができます。ウェットソロスイッチを使用すると、ドライシグナルをミュートすることができます。バランス・コントロールを使用すると、エフェクトの位置を決める左右のリバーブシグナルの相対的なボリュームを設定することができます。

## Pure Plate Reverbのコントロール

Pure Plate Reverbのインターフェイスは、プレートアンプ自体とリモートダンパー・コントロールに加え、いくつかのDAWでの使用に利便性のあるコントロールが追加されています。

### ローカット・フィルター

ローカット・フィルターは、リバーブの低域成分を減らすために使用される専用のプリプレート・イコライザーです。ハードウェア・プレートシステムでは、この設定は、プレートアンプ・ユニット自体にあり、コントロールルームからは簡単に調整できないため、ほとんど変更されることはありません。

ローカットHzコントロールがオフに設定されている場合、フィルタリングは行われません。90、180に設定すると12dB/オクターブのハイパスフィルターをリバーブシグナルに適用され、低域が減衰されます。

### プリディレイ

この可変スライダーは、ドライシグナルとリバーブのオンセットの間の時間を設定します。プリディレイを増加させると、リバーブの“ルーム(空間)”の知覚サイズが増加します。使用可能な範囲は0 to ~ 250 mSecです。

### リバーブタイム(ディケイ)

リバーブタイムは、現在のリバーブの長さを秒(mSec)単位で表示します。リバーブタイムは、アコースティックプレートに加えられる物理的なダンピングの量を調節し、リバーブタイムを変化させます。使用可能な範囲は、0.5~5.5秒までを0.1秒間隔で設定可能です。

これらのテクニックのいずれかを使用してリバーブタイムを調整することができます。:

- リバーブタイム・メーターの両側にある“-”または“+”ダンパーボタンをクリック
- リバーブタイム・メーターのインジケータの針を任意の場所でクリック、またはドラッグ
- プレートのダンパーディスプレイ・アニメーションを好みの位置に水兵にドラッグ(コントロールパネルの右側)

### トーンコントロール

ベースとトレブルのトーンコントロール・フィルタリングは、フレキシブルな音色を作成するためにカット/ブーストすることができます。

注:EQはリバーブ(ウェット)シグナルのみに適用されます。ドライシグナルには適用されません。

#### ベース

このパラメーターは、低域のブースト/アッテネーション量を±12 dBの範囲で設定します。

**ヒント:**テキストラベル “0”をクリックすると、値が中央(ユニティ)の位置に戻ります。

## トレブル

このパラメーターは、高域のブースト/アッテネーション量を±12 dBの範囲で設定します。

**ヒント:** テキストラベル “0” をクリックすると、値が中央(ユニティ)の位置に戻ります。

## バランス

リバーブリターンの左右チャンネルのレベル・バランスを取ります。ノブを時計回りに回すと左チャンネルが減衰し、その逆では右が減衰します。

**注:** テキストラベル “C” をクリックすると、バランス値が中央の位置に戻ります。

## ミックス

ミックスコントロールは、オリジナルのシグナルとエフェクトのかかったシグナルのバランスを決定します。範囲は、0% (ドライ) から100% (ウェット) までです。

このコントロールで低い値を選択するときレゾリューションを高めるために対数スケールを使用しています。ノブが12時の位置にあるとき、ミックス値は15%です。

**注:** ウェットソロをオンにしているとき、このノブは効果がありません

## ウェットソロ

このスイッチは、純粋なプレートリバーブを設定し、エフェクトシグナルのみを出力します。ウェットソロがオンに設定すると、ミックスノブを100%に設定と同じ状況になります。

ウェットソロはデフォルトではオンに設定されています。これは伝統的なリバーブ設定(チャンネルセンドで使用するように設定)でPure Plate Reverbを使用するとき最適です。Pure Plate Reverbをチャンネルインサートに使用する場合、このコントロールはオフにし、ドライ、ウェットのバランスをとりながら使用してください。

## パワー

このスイッチは、プラグインのオン/オフをコントロールします。パワースイッチを使用して、原音とプロセッシング後の信号を比較したり、UAD DSPの負荷を軽減するためにプラグインをバイパスさせることができます。(UAD-2 DSP LoadLockがオンになっている場合を除く)

**ヒント:** アウトプット・メーターはをクリックすると電源のオン/オフを切り替えることができます。

## アウトプット・メーター

ビンテージスタイルのVUメーターは、プラグインのアウトプットレベルを表示します。電源スイッチがオンの時にアクティブになり、電源をオフにするとゆっくりと最小値に戻ります。プラグインがオンの場合、アウトプット・メーターは点灯し、オフの時は消灯します。

